論　文　審　査　の　要　旨

博士の専攻分野の名称	博　士　（　学　術　）	氏名	山本　五郎
学位授与の要件	学位規則第４条第①・２項該当		

論　文　題　目

コーパスを用いた英語の応答表現に関する研究 －類義語を持つ語彙的表現の語法分析－

論文審査担当者

主　　査　教授　井上　永幸

審査委員　教授　吉田　光演

審査委員　教授　荒見　泰史

〔論文審査の要旨〕

本論文は，英語の話し言葉において，話し手の発話内容に対する理解や関心，あるいは発話内容に対する判断や評価などを示すために，聞き手によって発せられる定型的な語彙的表現に焦点を当て，コーパス言語学の手法を用いて談話上の意味と機能を分析することを目的としたものである。論文構成は，6 章から成る。第 1 章は，英語のあいづち表現（back channel）に関する主だった先行研究について概観するとともに，用語に関する問題点や一部の表現に偏って研究がなされてきた背景について述べる。また，本論文で分析対象とする表現を「応答表現」として定義するとともに，それらの表現を明示し，取り上げる意義について述べている。第 2 章では，本論文の分析の観点に直接関係する先行研究について言及し，また，特定の表現に注目した語法分析における EFL/ESL 辞書を活用することの有効性，及び本論文で使用するコーパスの特性と使用法についても言及している。第 3 章から第 5 章については，先行研究では充分に取り上げられてこなかった表現についてコーパスを用いた分析を行っており，第 3 章では，*Absolutely* とその類義表現である *Certainly* と *Definitely* に，第 4 章では，*Sure* とその類義表現である *Of course* に，第 5 章では，*Exactly* とその類義表現である *Precisely* に焦点を当てている。各章では，それぞれの表現について，会話における聞き手による応答表現としての用法を EFL/ESL 辞書や語法書で確認し，その内容について Wordbanks*Online* を用いて検証している。第 6 章では，第 3 章から第 5 章までの分析結果を総括し，特に後続の文脈との関係について，本論文で分析対象とする語彙的な応答表現について考察するとともに，本論文の独自性と意義及び今後の課題について述べている。

本論文の意義は，以下の 3 点に集約できる。1 点目は，英語の応答表現に関する先行研究では取り上げられてこなかった特定の語彙的表現を分析対象としたことである。応答表現に関する先行研究では，限られた談話データに基づいて分析を進めることが多く，出現頻度のあまり高くない表現については充分に取り上げられてこなかった経緯がある。また，多くの先行研究は，分析対象とする表現について，依頼や許可を求める表現や情報を確認するための質問など，話者交替が想定される疑問文への返答を含めないとするものが多かった。それらの表現に焦点を当て，談話機能のみに注目するのではなく，語義や使用域などについても包括的に分析対象としたことに意義があると言えよう。2 点目は，一般に公開されている大規模コーパスを分析に用いて，再検証やデータ検出の再現性に配慮した点である。先行研究では，独自に収集した

談話データに基づいていることが多く，また，各研究では限定的な文脈しか提示されないこともあり，それぞれの表現がどのように用いられていたのかを再検討することが容易ではなかった。この点については，応答表現に関する研究では先駆的な手法であると言えるだろう。3 点目は，各表現について個別に焦点を当てるのではなく，類義性の高い表現と合わせてその違いに注目した点である。先行研究では，非語彙的な表現が中心であったことに加えて，語彙的な表現を取り上げることがあっても，さまざまな表現を一括りにした上で機能に注目することが多かった。語義や使用域，用法などにおける類義表現の類似点や相違点について注目した点も，本研究の意義として挙げることができるだろう。

以上，審査の結果，本論文の著者は博士（学術）の学位を授与される十分な資格があるものと認められる。

備考　要旨は，1,500 字以内とする。